

## 設 立 趣 旨 書

### 1 趣旨

今農業の抱える一番の問題は、若い人材不足と高齢化です。耕作放棄地の増加、食料自給率の低下等の問題は昨今の米不足騒動からも容易に窺い知ることができます。農家の高齢化が進む原因には、少子化に加え新規就農のハードルの高さも要因の一つであると考えられます。新規就農するには長時間の研修が必要であり、就農後も肥料、資材、燃料代の高騰等のしかかる負担は年々増大しています。

日本の農業従事者は国内総人口の約1.1%となっており、65歳以上が7割を占めています。人手が減る中、農業に携わるのは「農家」だけでは充分でない事は確かです。そして、農業に僅かながらでも興味を持つ人は多数います。そういった人々が参加しやすい環境を整えるために農業のハードルを下げる必要があります。人々が少しずつ携われれば負担は減り、耕作放棄地を減らす事が可能です。就農に興味を持って貰える機会にもなると考えています。また作業の助けを必要とする高齢農家の手助けをできるような繋がりを生み出すこともできます。

私たちは四年前から耕作放棄地となった田んぼを借り耕作を始めました。虫の住む場所で、農薬、化学肥料、除草剤等は一切使用せず、環境負荷の低い方法で開拓しました。その過程で、近隣農家との交流が生まれ、お互いに協力しながら米作りをし、さらには高齢農家より耕作放棄地を複数貸していただくなど、地域とのつながりも広がっています。

また、増加した農地を無理なく維持するため、文教大学情報学部と連携し、最新のIT技術を用いて、「人と環境に負荷をかけない持続可能なスマート農業」の研究も進めています。

さらに、この自然環境を子どもたちの成長・体験の場として活かすため、子ども向けスポーツクラブを運営している知人の協力のもと、沢山の子どもたちに自然に触れてもらいながら米作り体験をしてもらっています。

私たちは、誰もが気軽に農業に関われる仕組みづくりと、人にも自然にも負担の少ない農業の実践を目指しています。そして、この活動を通じて、耕作放棄地を減らし、多くの人が「農業を自分の生き方の一部として関わる」ことができる環境を広げていきたいと考えています。農業を起点に、地域コミュニティ形成や子どもの健全育成にも寄与できると考えています。

### 2 申請に至るまでの経過

五年前に就農して個人として活動してきましたが、私たちの目指す農業は利益を求めるものではないため、活動を拡大するには負担が大きいです。一方で、これまでの取り組みに賛同し参加してくださる地域住民や学生、ボランティアが増え、活動の必要性和社会的意義を強く実感するようになりました。こうした活動は利益を目的としない公益性の高いものであり、非営利を原則とするNPO法人として運営することが最も適していると考えに至りました。

また、NPO法人は事業報告・会計情報の公開が義務付けられており、公共性・透明性が担保されるため、地域住民や行政、企業からの信頼を得やすく、協働や寄付金の受入れも公的な枠組みの中で行えるという大きな利点があります。

これらの理由から、より多くの方が安心して参加・支援できる体制を整え、地域の資源を守りながら次世代につなぐため、NPO法人として法人化することを決意しました。今後も地域とともに、持続可能な農業・環境保全・人材育成の活動を広げていきたいと考えています。

令和7 年 12 月 5 日

法人の名称 特定非営利活動法人ふじさわみらい農園

設立代表者 渡邊 麻衣